

平成27年2月4日

第5回三重県少子化対策推進県民会議・計画策定部会

松田茂樹委員 ご意見

- みえ県民意識調査で把握している県民の幸福感を計画全体にかか  
るモニタリング指標としてはどうか。
  
- 依然として出産を機に退職する女性が多く、県民会議においても  
核家族化の進行に伴い母親の孤立が懸念されるという意見も出され  
ており、「重点的な取組7 保育・放課後児童対策などの子育て家庭  
の支援」に記載されているとおり、母親の就労の有無に関わらず、  
すべての子育て家庭を支える取組が必要である。
  
- 重点目標については概ねよいと考える。  
なお、「男性の育児参画の推進」については、「男性の育児休業取  
得割合」だけでは、取組の全体を表しているとは言い切れないので、  
指標を追加すること等について検討されたい。
  
- 三重県で大学を運営していくことは厳しい状況にあることから、  
愛知県など県外の大学に通学した学生が三重県内に就職できるよう  
にするよう努めることも必要と考えられる。
  
- 今後、人口減少社会を乗り切っていくためには、過去を振り返っ  
てみても、家族が鍵を握っているのではないかと考えられる。